相模原市立千木良小学校　学校だより

千木良小だより



自ら学び　心豊かに　生きる子の育成　　令和８年９月３０日　№.７

知っておいてほしいこと

学校長　門倉　恭子

今年の秋の長雨は、うんざりするほどです。２学期がスタートして１ヶ月が経ちましたが、子どもたちが校庭で無邪気に走り回る姿を見たのは、数えるほどしかありませんでした。そんな中でも、毎日傘を差し、長い通学路を歩いて元気に学校に通ってくる子どもたちには頭が下がります。２学期の大きな行事である運動会まであと１３日。校庭での練習はほとんどできていませんが、校舎内のあちらこちらで本番に向けて練習に取り組む子どもたちの姿が見られます。休み時間も返上しての練習の日々です。子どもたちのがんばり、ご家庭でもそっと見守り、応援の声かけをお願いします。

そんな子どもたちの日々には、あまり表に出てこない出来事もあります。今日は、それを知っていただきたいと思います。

赤馬から歩いて登校してきた子どもたちから、「スズメバチの巣があったんだよ。」との報告が入りました。実際に行ってみると、そこは、「溝口桂巌（みぞぐちけいがん）ゆかりの地」として相模原市の文化財にも登録されている場所でした。そこにある木の幹から数匹のスズメバチが出入りしている様子がうかがえました。子どもたちが普段通りに歩いていれば、道の反対側でもあるので、気づかないような場所でした。それでも子どもたちが気にしながら歩いてこられたのは、子どもたちの登校時間を見計らって通学路に立ち、注意するようにと声をかけてくださった方がいたからでした。きっとその方が市に連絡を入れてくれたのでしょう。すぐに市が「スズメバチ注意」の立て札を立ててくれ、翌日には巣の撤去も終わっていました。子どもたちの安全な登下校を見守る学校としても、この早い対応には本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

子どもたちと通学路を歩いていると、今年は特に気になることがありました。何の動物かはわかりませんが、通学路にフンが落ちていることが多くなったということです。毎日学校農園に大豆の様子を観察に行っている３年生からも、畑が動物に荒らされているという報告も入り、学校近辺でも夜間の動物被害が問題になっています。学校前の道路には、毎日大量のフンがあり、その処理にも困っていました。すると、学校近隣の鳥獣対策を担当している方が市にすぐに連絡を入れてくださいました。市も「通学路だから」と対応を考えてくださるそうです。ありがたいことです。

同じように、動物の出没が多くなったことを心配して、千木良の他の地区で鳥獣対策を担当している方からも「子どもたちの通学が心配だから、動物出没の情報共有をしていこう。」と声かけをしてもらっています。

同じように、子どもたちだけで歩いている登校を見守る「安全ボランティア」の方々の存在も忘れてはなりません。暑い日も寒い日も、そして雨の日も、毎朝通学路に立ち、一緒に歩いてくださる安全ボランティアの皆さん。時には、重い荷物で歩くのが遅くなる子どもの荷物を代わりに持ちながら、そして励ましながら、一緒に歩いてくださる姿も見かけます。

日常のほんの一コマ、通学路のことを家庭で話す子どもはそう多くはないでしょう。でも、知っておいてほしかった。子どもたちのことをそっと陰から見守る、支える人たちがいることを。「子どもは千木良の宝だ」と思って寄り添ってくださる方がいることを。きっと、私たちの耳には入ってこないけれど、子どもたちへ心を寄せて接してくださっている方がたくさんいることと思います。千木良って本当に温かい地域だな…と思います。

